

エキサイティングな街を  
いま《クラッシュ・ムービー》の  
むせかえる熱気が疾走する!



世界22カ国、1500万部を売りつくした  
ハード・サスペンスの超ベスト・セラー!  
ニューヨークの夜と昼に  
オール・ロケを敢行して、ついに映画化!

# ジャグラー

## ニューヨーク25時

ジェームス・ブローリン ● クリア・ゴーマン  
リチャード・カステラーノ  
リンダ・G・ミラー ● ダン・ヘダヤ  
アビー・フルーストーン  
ジュリー・カーメン



NIGHT OF THE JUGGLER

製作/アーノルド・コペルソン ● 制作/ジェイ・ウェストン  
監督/ロバート・ロバート ● 原作/ウィリアム・P・マックギバーン (原典: 早田善房)  
脚本/ビル・ノートン・シニア/リック・ナトキン ● 撮影/ビクター・J・ケンパー  
美術/チュアート・ワーツェル ● 音楽/アーティー・ケイン  
カラー作品・アメリカ映画/東宝東和提供

● お得な特別観賞券1000円 < 一般1300円 / 学生1100円の処 > 発売中!

6月7日(土)よ《白熱》のロードショー!

歌舞伎町

新宿 グランドオデオン (202) 0141

# その日は、いつもとかわらない1日の始まりだった……

## ○朝

ニューヨーク。乾いた街が人いきれの中で、つかの間のうるおいをとり戻す。元警官でトラック運転手のボイドは、夜勤を終えて、ひとり娘のキャシーが待つアパートに帰る。今日はキャシーの誕生日だ。どこにでもいるような父と子——いつものようにふたりして学校までジョギング。朝のセントラル・パークは清々しかった……。

## ○午前10時

激烈をきわめる追跡は、タクシーで、地下鉄で、そしてまた車と何度も衝突をくり返しながらか、マンハッタン街中を疾走した。しかし寸前のところで、ボイドの運転する車はトレーラーをよけそこなって横転。犯人をとり逃したボイドは、全身を強く打って病院に收容された。同時刻、ソルティックはキャシーとともにサウス・ブロンクスの荒れ果てたアパートに着いた。

## ○正午

ボイドは、病院で第22分署のトネリ警視に誘拐の話をする。が、とり合わないばかりか、元同僚のバーズ巡査部長に昔の恨みで殴られる始末。ボイドはバーズを叩きのめすと、再び自力で追跡を開始した。

## 午後3時○

8番街42丁目。犯人が逃げる途中、ポルノ・スタジオの前で何かを落としたのを見ていたボイドは、それが犬の鑑札票であることをつきとめ、手に入れた。その時、半狂乱のバーズが、ショット・ガンを乱射して追ってきた。

## ○午後5時

ボイドは、動物登録所で犯人の住所をつきとめると、所員のマリアの案内でサウス・ブロンクスへと向かった。もうあと一息だ！

## 午後9時○

またしてもボイドは、プエルトリコ人のチンピラたちの邪魔で犯人を逃してしまった。キャシーはまだ生きている！最後のチャンスに賭けてボイドは、犯人が身代金を要求してきたセントラル・パークのコンサート会場へと向かった……。

### 狂気は走り出した！

同じ頃、セントラル・パーク。ガス・ソルティックは盗んだ車の中でクレイトン不動産の娘バージニアを誘拐しようとしていた。来た！だがむりやり車に連れ込んだ娘は、同じ恰好のキャシーだった。娘の悲鳴で振り向いたボイドの、ハンターののような追跡が始まった。



## 解説

いま、もっとも熱い視線が注がれている街ニューヨークから、一番ホットな映画＝〈クラッシュ・ムービー〉がやってきた。ニューヨークのめったに見られない生身の姿——、大都会の明と暗に強烈なパワーとサスペンスで迫る問題作である。初夏のある朝に始まり、夜に終わる。人違いの誘拐という異常な事件をモチーフに、現実に頻発する犯罪をドキュメンタルな迫力で描いている。

原作は世界的なベストセラー作家ウィリアム・P・マッキバーンの同名小説で、全世界22ヶ国、1500万部を売りつくした。

そして新鋭のロバート・バトラー監督のほか、主演に「カプリコン1」のジェームス・ブローリン、「結婚しない女」のクリフ・ゴーマンなどエネルギーあふれる顔ぶれである。

## クラッシュ・ムービー

CRASH MOVIE＝クラッシュ・ムービー。日本ではまだ耳慣れない言葉であるが、いまニューヨーカーたちの間では、抜群に「ホット」な響きをもって話題を集めている。強烈なパワーと休むことを知らないスピーディーでシャープな映像。そして二重の追跡＝警官が主人公を、主人公が誘拐犯を、追って、追って追いまくる。この息づまるサスペンスが、〈クラッシュ・ムービー〉の醍醐味だ。アメリカを代表する2つの才能——気鋭の監督ロバート・バトラーとベストセラー作家ウィリアム・P・マッキバーン。彼らが手を組んで生み出したこの斬新な映像は、映画界への挑戦状と言える。ニューヨークの持つ独特の雰囲気や、完璧なまでに映像に焼きつけて、その熱気は観る者をひきつけて離さない。

